

三原二中校長通信

校訓「響き合う二中っ子」

キャッチコピー「響き合っていますか、私たち」

第12号

平成22年2月10日

授業力の向上と学力の向上

1 学校教育法第30条第2項の意味

前項の場合においては、生涯にわたり学習する基盤が培われるよう、**基礎的な知識及び技能を習得**させるとともに、**これらを活用して課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力その他の能力**をはぐみ、**主体的に学習に取り組む態度**を養うことに、特に意を用いなければならない。

ここには国(文部科学省)が示す新しい学力観が窺われる。すなわち、この**新しい学力観に基づく「習得」「活用」等の教育**は、新学習指導要領の完全実施を待つまでもなく、**現行教育課程の中で実施**していくことが、法律によって求められているのである。

2 新学習指導要領における改善事項—言語活動の充実

今回の改訂における改善事項のうち、特記すべきことの一つは、国語科のみならず、**各教科等における言語活動を充実**させるとしていることである。

このような各教科等における言語活動の充実は、**各教科等における「習得・活用・探究」という学習過程とも連動**していくことが求められる。新教育課程における各教科等の授業の在り方は、この点からも改善が図られるべきである。各教科等とは、各教科・道徳・総合的な学習の時間・特別活動を含むものである。

3 確かな学力—「習得・活用・探究」

中央教育審議会初等中等教育分科会教育課程部会審議経過報告(概要)[平成18年2月13日]によって、「**確かな学力**」の中に、「**習得・活用・探究**」が位置づけられた。

(1) 学習プロセスとしての「習得・活用・探究」

「習得・活用・探究」は、「習得」「活用」「探究」とそれぞれを切り離すのではなく、一連の学習プロセスとすることに意味があるとされている。すなわち、「**習得・活用・探究**」は、**学習場面における能力育成の一連のプロセス(能力育成のための学習プロセス)**である。

(2) PISA型学力と「習得・活用・探究」

PISA型学力は、「**受信する→考える→発信する**」という一連のプロセスの中にあり、「**習得・活用・探究**」の学習プロセスの中にそれぞれ内在するとされる。

すなわち、「**習得**」の学習、「**活用**」の学習、「**探究**」の学習のいずれの場合にも、それぞれに「**受信する→考える→発信する**」ことが求められているのである。

(3) PISA型学力を身に付けるための授業改善の視点

PISA型学力の育成を図るためには、**各教科・道徳・総合的な学習の時間・特別活動**で身に付ける力との**関連を**考えて、**継続可能な方法をとる**ことが望まれる。

- 「**考える課題**」を設定する。
- **小グループ**による話し合いの機会を増やす(ホワイトボード・模造紙の活用)。
- **自分の考えを書く**機会を増やす。
- 学習を言葉で振り返る。

4 言語活動の充実

<言語技術の活用>

①受け答えをする技術

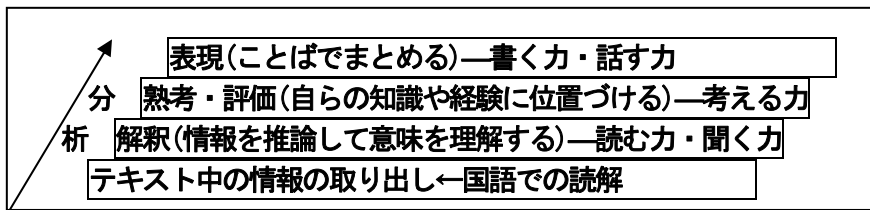
- 主語を入れさせることによって、自分の発言に責任をもたせるとともに、**主述の整った文で答えさせる**。(主語が入っている。目的語が入っている。主述の整った文になっている。)
- 事実と意見を区別させる**。
- 結論先行で述べさせる**ことによって、一番言いたいことを明確に伝えさせる。(結論先行になっている。)
- 理由や根拠を明らかにさせることによって、**筋道立てて物事を考えさせる**。(説得力のある理由や根拠になっている。**ナンバーリング**を正しく使っている。)

②情報を正しく伝える技術(描写・説明)

- 必要な情報を整理し、**順序を考えて説明**する力を育てる。
- 全体から部分へ、右から左へなど、**秩序だった視点移動の力**を育てる。
- 情報の重要性を判断**することができるようになる。
- *相手に分かりやすい順序と内容になっている。

③情報を的確に分析する技術(絵の分析・テキストの分析)

- 絵の中からの情報を根拠として**分析**する方法を身に付けさせる。
- 多様な視点で分析し、**議論**する力を育てる。
- 読解に基づいて**小論文が書ける**ようにする。
- 観察力・分析力・解釈力・論証力・推理力・連想力・想像力・判断力**が身に付く。
- 論理的・複眼的・批判的思考力**が身に付く。
- *PISA 型読解のプロセスと「分析」



授業チェックシート

項目		評価内容	評定
1 内容	①	ペアトーク・グループトーク・クラストーク、役割演技等、 多様な学習活動 を取り入れている。	4・3・2・1
	②	既習内容の活用、他の文章や資料との比較、見通しや予想などの 考える方法の指導 をしている。	4・3・2・1
	③	考えをまとめたり整理したりするために、 書く活動 を取り入れている。	4・3・2・1
	④	根拠を挙げて自分の考えを述べたり、書いたりするなど、効果的に 言語技術を活用 させ、 言語活動の充実 を図っている。	4・3・2・1
	⑤	本時のまとめは、 めあてと対応した学習の振り返り をさせると共に、 次時への学習の見通し をもたせている。	4・3・2・1
2 板書	⑥	一時間の本時のめあてとまとめがつながっており、 授業内容を構造的に表現 し、わかりやすく書いている。	4・3・2・1
3 発問・指示等	⑦	全員に聞こえる声 で明確に発問・指示している。	4・3・2・1
	⑧	中心発問・補助発問 をあらかじめ考え、 個に応じた柔軟に対応 している。	4・3・2・1
	⑨	生徒が意見等を活発に発言し、自分の意見と異なる他の意見との交流をするなど、 生徒同士の相互作用を活発にさせるような発問・指示 をしている。	4・3・2・1
4 評価	⑩	生徒に 本時の目標に対応した自己評価 をさせている。	4・3・2・1

